

音楽（小学部）

【目標】

表現及び鑑賞の活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活の中の音や音楽に興味や関心をもって関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

1 知識・技能

曲名や曲想と音楽のつくりについて気付くとともに、感じたことを音楽表現するために必要な技能を身に付けるようにする。

2 思考力・判断力・表現力等

感じたことを表現することや、曲や演奏の楽しさを見いだしながら、音や音楽の楽しさを味わって聴くことができるようにする。

3 学びに向かう力、人間性等

音や音楽に楽しく関わり、協働して音楽活動をする楽しさを感じるとともに、身の回りの様々な音楽に親しむ態度を養い、豊かな情操を培う。

※特別支援学校幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領より

【小学部の指導について】

本校小学部では、1年生から6年生までの年齢幅の広い児童の発達段階に応じた活動を行えるよう、学年毎に音楽を行っている。集団での学習が苦手な児童や大きな音が苦手な児童、初めての活動に不安を示す児童など、多様な実態の児童が見通しをもって楽しく活動に取り組めるよう、月毎に指導計画を作成し、同じ授業の流れで一定期間取り組むようにしている。

授業で取り上げる曲は、児童が興味・関心を持ち、楽しんで取り組めるものを選曲している。学びの連続性に応じられるよう、文部科学省出版の特別支援学校知的障害者用小学部音楽教科書「おんがく☆」「おんがく☆☆」「おんがく☆☆☆」の曲を中心に選曲を行っている。

表現においては、年間を通して歌唱・器楽・音楽づくり・身体表現の4領域が全て行われるようにする。多様な実態の児童の表現の表出を促すために、歌唱と身体表現を組み合わせたり、器楽と音楽づくりを組み合わせたりするなど、4領域を組み合わせながら指導を行っている。また、鑑賞においては、CD音源や映像、生演奏を鑑賞したり、友達の発表をお互いに見合ったりする活動を通して、鑑賞する態度を身に付けることもねらいとしている。

【指導内容】

	目指す児童の姿	活動例
1年 (2時間)	<p>音楽遊び (1・2年)</p> <ul style="list-style-type: none"> 音や音楽を聴いて、音楽を楽しみながら自分なりに体を動かしたり、楽器の音を鳴らしたり、声を出したりする。 <p>歌唱 (3～6年)</p> <ul style="list-style-type: none"> 曲に合わせて、曲の一部分を歌ったり、身振りや手ぶりを交えて歌ったり、教師や友達と一緒に歌ったりする。(3・4年) 曲に合わせて、歌詞やリズム、曲想、強弱などを意識して歌ったり、教師や友達と一緒に声を合わせて歌ったりする。(5・6年) 	<ul style="list-style-type: none"> 手遊び歌 身体表現を伴う歌 楽器によるリズム打ち など 歌 (季節の歌、日本の歌、世界の歌、童謡・唱歌、共通歌唱教材、式歌・校歌など) 身体表現を伴う歌 手話歌 など
2年 (2時間)	<p>器楽 (3～6年)</p> <ul style="list-style-type: none"> 拍や曲のリズムの特徴、楽器の音色の違いに気付き、身近な打楽器で、範奏の模倣をしたり、教師や友達と一緒に演奏したりする。(3・4年) リズムや強弱、演奏の仕方による楽器の音色の違いに気付き、色を手掛かりにしたカードや楽譜を見て演奏したり、身近な打楽器や旋律楽器を使って演奏したり、教師や友達の楽器の音を聴いて演奏したりする。(5・6年) 	<ul style="list-style-type: none"> 楽器演奏 (打楽器、旋律楽器など) 器楽合奏 リズム合奏 など
3年 (2時間)	<p>音楽づくり (3～6年)</p> <ul style="list-style-type: none"> 音遊びを通して、音の面白さに気付き、音を選んだり、つなげたりしながら、教師や友達と一緒に音楽をつくる。 <p>身体表現 (3～6年)</p> <ul style="list-style-type: none"> 簡単なリズムや旋律の特徴、歌詞を感じ取りながら、教師や友達と一緒に体を動かす。 	<ul style="list-style-type: none"> 音遊び 音楽づくり 手作り楽器づくり など
4年 (2時間)	<p>鑑賞 (全学年共通)</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分なりの楽しさを見付けながら、音や音楽を聴く。(1・2年) 曲想や楽器の音色、リズムや速度、旋律の特徴などに気付き、曲や演奏の楽しさを見いだして聴く。(3～6年) 	<ul style="list-style-type: none"> ダンス 発表の鑑賞 CDによる鑑賞 DVD鑑賞 生演奏鑑賞 など
5年 (2時間)	<ul style="list-style-type: none"> 曲や楽器について興味・関心を広げ、知識を身に付ける。(全学年共通) 音や音楽に集中し、静かに鑑賞する態度を身に付ける。(全学年共通) 	
6年 (2時間)		

音楽（中学部）

【目標】

表現及び鑑賞の活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに興味や関心をもって関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

1 知識・技能

曲名や曲想と音楽の構造などとの関わりについて理解するとともに、表したい音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。

2 思考力・判断力・表現力等

音楽表現を考えることや、曲や演奏のよさなどを見いだしながら、音や音楽を味わって聴くことができるようにする。

3 学びに向かう力、人間性等

進んで音や音楽に関わり、協働して音楽活動をする楽しさを感じるとともに、様々な音楽に親しんでいく態度を養い、豊かな情操を培う。

※特別支援学校幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領より

【中学部の指導について】

本校中学部では、1学年、2・3学年合同で授業を行っている。集団での学習が苦手な生徒や、太鼓の大きい音が苦手な生徒、やりたいことと違う活動内容の際に同じ空間に居るのが難しい生徒等が見られる。生徒の実態把握を行いつつ、発達段階に応じた活動を行えるよう、教師間で学習内容を検討し、共通理解を図りながら授業を行っている。また、生徒自身が学習した内容を活かして主体的に音楽活動に取り組めるよう、鑑賞に関連した曲を合奏したり、リズム学習で学んだことを基に身体表現や創作活動を行ったりする等、授業の展開の工夫を行うようにしている。

授業で取り上げる曲は、生徒が興味・関心がもてるよう、幅広い教材を取り扱っている。また、学びの連続性に感じられるよう、文部科学省出版の特別支援学校知的障害者用中学部音楽教科書「おんがく☆☆☆☆」「おんがく☆☆☆☆☆」の中から選曲を行っている。

表現においては、年間を通して歌唱・器楽・音楽づくり・身体表現の4領域が全て行われるようにする。歌唱や身体表現では情景や音色を、器楽・音楽づくりでは音色やリズム等表現したいイメージをもつことをねらいとしている。また、表現の4領域及び鑑賞を組み合わせることで、幅広い音楽に触れることができるようにしている。

【指導内容】

	目指す生徒の姿	活動例
1年 (2時間)	<p>歌唱</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歌の雰囲気を感じ取って歌う。(1年) ・歌の雰囲気や音色、速度を味わって歌う。(1～3年) ・情景をイメージして歌う。(2・3年) <p>器楽</p> <ul style="list-style-type: none"> ・楽器を選び、好きなリズムで演奏する。(1年) ・好きな音色の楽器を選び、様々なリズムで演奏する。(1～3年) ・様々な拍子やリズムパターンを覚え、合奏や独奏をする。(2・3年) <p>音楽づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音の響きやリズムパターンの面白さに気付き、簡単な音楽を作ることができる。(1年) ・音の違いやリズムパターンの特徴に気付き、簡単な音楽を作ることができる。(2・3年) 	<ul style="list-style-type: none"> ・歌(季節の歌、日本の歌、世界の歌、歌唱、共通歌唱教材、式歌、校歌) ・楽器演奏(打楽器、旋律楽器等) ・器楽合奏 ・リズム合奏 ・音楽づくり ・お話の音楽(紙芝居、絵、色)
2・3年 (2時間)	<p>身体表現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽を聴いて感じたことを動作で表現したり、リズムに合わせて身体表現をしたりする。(1～3年) ・リズム、音色、歌詞を感じて自ら表現する。(2～3年) <p>鑑賞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音や音楽に興味・関心を持って聴く。(1～3年) ・日本の音楽、民謡音楽、世界の音楽、近代の音楽等幅広い音楽に親しみ、味わって聴く。(1～3年) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ボディパーカッション ・ダンス ・踊り(日本民謡) ・音源(CD)鑑賞 ・映像(DVD)鑑賞 ・生演奏鑑賞

音楽（高等部）

【目標】

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

1 知識・技能

曲想と音楽の構造などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。

2 思考力・判断力・表現力等

音楽表現を創意工夫することや、音楽を自分なりに評価しながらよさや美しさを味わって聴くことができるようにする。

3 学びに向かう力、人間性等

音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育むとともに、音楽に親しんでいく態度を養い、豊かな情操を培う。

※特別支援学校高等部部学習指導要領より

【高等部の指導について】

高等部の音楽は、入学時に音楽または美術のどちらかを選択して学習する選択教科となっている。原則、2年間は継続し、3年生進級時に再選択できるようになっている。授業は学年毎に行っている。

授業で取り上げる曲は、生徒の生活年齢、及び発達段階に応じた日常生活に関連した曲、身近で親しみやすい音楽を扱うようにしている。また、必要に応じて ICT を活用し、動画で生徒の機微の成長の様子について確認したり、生徒相互の音楽経験を共有したりできるように工夫している。

高等部では、年間29時間程度、地域の太鼓奏者が非常勤講師として来校し、生徒は、和太鼓の基本的な奏法等の指導を受け、みたけ祭では、音楽選択生徒による3学年合同演奏「みたけ太鼓」の演奏を発表している。長期の取り組みとなる学習では、内容や時間のまとまりを見通して、学習の充実を図るようにしている。

生徒が音楽科の学習で得た音楽経験を学校生活や卒業後の家庭、社会生活における余暇や趣味につながるよう、音楽に親しむ態度や情操（心情・感性）の育成に重点を置いて指導している。

【高等部 指導内容】

	目指す生徒の姿	活動例
<p>1年 (2時間)</p>	<p>歌唱</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 範唱を聴いたり、楽譜を見たりして歌う。(1年) ・ 声の音色や響きと発声の関わりに気づき、歌唱表現を工夫しようとする。(1～3年) ・ 互いの歌声や伴奏を聞いて、声を合わせて歌う。(1～3年) <p>器楽</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 範奏を聴いたり、楽譜を見たりして演奏する。(1年) ・ 声部の楽器の音や伴奏を聴いて、音を合わせて演奏する技能を身に付ける。(1～3年) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 歌 (季節の歌、日本の歌、アニメソング、ポップス、式歌、輪唱、パートナーソング) ・ 和楽器演奏 (太鼓、箏) ・ 旋律楽器・打楽器合奏 ・ タブレット端末を使った演奏
<p>2年 (2時間)</p>	<p>創作</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 音の響きやそれらの組み合わせの特徴、音やフレーズのつなげ方や重ね方の特徴が生み出す面白さと関わらせて理解する。(1年) ・ 創作表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら創作表現を創意工夫する。(1～3年) ・ 創意工夫を生かした表現で音楽をつくるために必要な、課題条件に沿った音の選択や組み合わせなどの技能を身に付ける。(1～3年) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 和楽器によるリズム作りや即興演奏
<p>3年 (2時間)</p>	<p>身体表現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 曲の速度やリズム、曲想に合わせて表現したり、様々な動きを組み合わせるとまとまりのある表現をしたりする技能を身に付ける。(1～3年) <p>鑑賞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 鑑賞についての知識を得たり生かしたりしながら、曲や演奏の良さを見だし、曲を味わって聴く。(1～3年) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 手話ソング ・ 郷土の音楽 ・ 芸術鑑賞教室 ・ 描写音楽 ・ オーケストラを知ろう ・ 生活の中にある音楽

音楽科における目標、評価規準作成の手順

① 学習指導要領を基に、内容のまとまりを整理する。

{知識及び技能} → (2) 内容の (イ)、(ウ)、[共通事項] イ
「思考力・判断力・表現力」 → (2) 内容の (ア)、[共通事項] ア
「学びの向かう力、人間性等」 → 表記なし

② 内容のまとまりを基に、目標を作成する。

「知識及び技能」

内容の (イ) に気付くとともに、内容の (ウ) 技能を身に付ける。

「思考力・判断力・表現力」

前半は [共通事項] ア、後半は内容の (ア)

音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったことの関わりについて考え、内容の (ア) の文末

「学びに向かう力、人間性等」(特別支援の小学部は、以下の文章で表記)

音や音楽に親しむことができるよう、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組む。

③ 目標の文章の文末を変えて、評価基準を作成する。

「知識・技能」(知識と技能は分けて記述)

内容の (イ) に気付いている。(知識)

内容の (ウ) 技能を身に付けている。(技能)

「思考・判断・表現」

[共通事項] ア + 内容の (ア) ている。or している。

「主体的に学習に取り組む態度」(特別支援の小学部は、以下の文章で表記)

音や音楽に親しむことができるよう、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

<参考資料>

・特別支援学校小学部・中学部 学習評価参考資料(令和2年4月、文部科学省)